

子どもが幸せに生きるために必要な「学び」とは？

0才から
小学生の
保護者対象



非認知能力と 学力の関係性

6月29日(土) 会場：有明 GYM-EX
【一部】13:00-13:40 【二部】13:50-14:30

新井 美里

ママガク学長
子育てデザイン総合研究所理事



征矢 里沙

FQ Kids 編集長
生きる力をはぐくむ教育研究家



講演者のご紹介



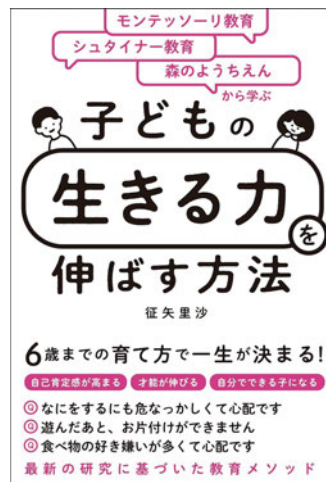
征矢 里沙：FQKids 編集長
生きる力をはぐくむ教育研究家

慶應義塾大学総合政策学部にて多様な教育のあり方を研究。株式会社リクルートを経て「NPO 法人いきはぐ」を立ち上げ、「生きる力をはぐくむ教育」をテーマに全国約 100 ヶ所以上の学校・園を取材。子育て・教育に関する執筆・講演等の活動を行う。

2022 年より『FQ Kids』の編集部に入り、非認知能力を育てウェルビーイングに生きるための子育て・教育情報を発信。小学生 2 人の男児の母としても日々奮闘中。



著書「モンテッソーリ教育 × シュタイナー教育 × 森のようちえんから学ぶ 子どもの「生きる力」を伸ばす方法」



新井 美里：ママガク学長
一般社団法人子育てデザイン総合研究所理事

自身の子育て経験をきっかけに、2013 年、新しい子育て支援の場として「ママガク」を設立。これまで延べ 4 万人以上の親子に子育て講座を提供。また 2018 年からは、おうちではできない本気の遊びを通じて非認知能力を伸ばす **こどもリベラルアーツけんきゅうじょ** も開講。0 歳から小学生対象に年間累計 750 回のクラスを担当している。他、講演会を多数実施。現在、夫と 20 歳、17 歳、12 歳の 3 人の子どもと埼玉県で暮らす。



本誌 16 ページ目
新井美里の
“個才”を発見して
伸ばす方法
第 1 回「子どもの個性が
よりよく見える観察メソッド」

【一部】 13:00-13:40

①非認知能力と学力の相関性とは

- ・ 非認知能力と認知能力は螺旋階段上にある：征矢
- ・ 子どもの個性に合わせた非認知能力の育み方：新井

②言語能力について

- ・ 言語能力と学力の関係：征矢
- ・ 年齢別の言語能力の伸ばし方：新井

③自制心について

- ・ 自制心が学力にどう影響するのか：征矢
- ・ 自制心を伸ばす親の関わり方：新井

④探究心について

- ・ 探究心が学力にどう影響するのか：征矢
- ・ 遊びから伸ばす探究心について：新井

【休憩】 13:40-13:50

【二部】 13:50-14:30

⑤自己肯定感について

- ・ 自己肯定感が学力にどう影響するのか：征矢
- ・ 自己肯定感が非認知能力の土台となる：新井

⑥想像力について

- ・ 想像力が学力にどう影響するのか：征矢
- ・ 遊びのタイプ別、想像力の伸ばし方：新井

⑦コミュニケーション能力について

- ・ コミュニケーション能力が学力にどう影響するのか：征矢
- ・ 内弁慶さんや恥ずかしがり屋さんの対話を伸ばすコツ：新井

⑧意欲について

- ・ 意欲と学力の関係：征矢
- ・ 心理発達段階における意欲の育て方：新井

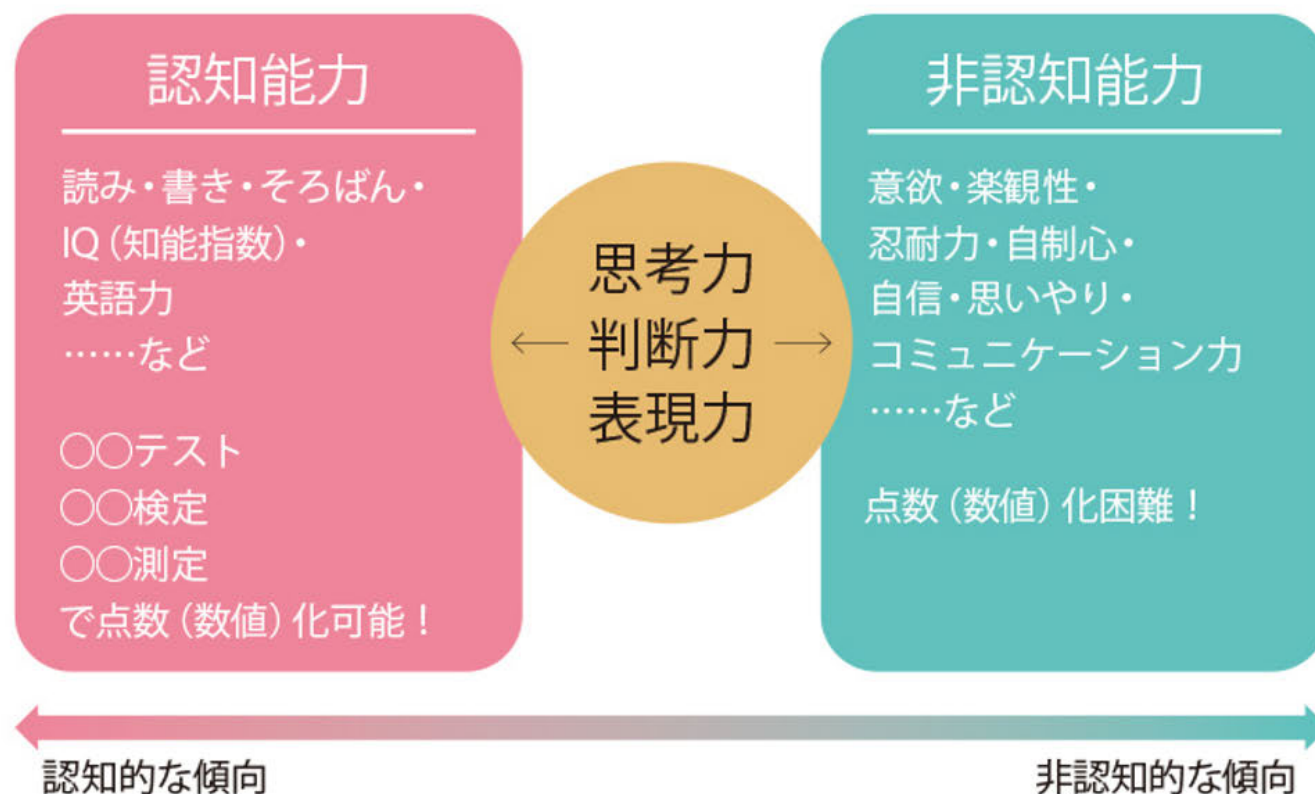
**⑨非認知能力が子どもの幸せな生き方
(ウェルビーイング)の土台となる**

- ・ 質疑応答



①非認知能力と学力の関係性とは

非認知能力とは、「社会と関わり、幸せに生きていくための力」



- ・ 認知能力と非認知能力は相反する能力ではない
- ・ たとえばコミュニケーション力は「他人の気持ちを理解する力」が必要だが、「言語能力」とも深く関係している
- ・ 認知能力も、非認知能力も、どちらも伸ばすには大人のサポートが必要

子どものタイプ別 非認知能力の種(シード)の伸ばし方

物おじしない子
好奇心旺盛な子
自由気ままな子

主体性

実行力

目についたものはどんどん触っていくタイプの子どもは主体性・実行力が備わっており、たくさんの刺激を受けることで興味や関心が伸びます。その中でも好きなこと、得意なことを見つけると探究心や集中力が伸びていきます。

人見知りの子
観察タイプの子
場所見知りな子

自制心

**問題
解決力**

初めての環境、友達は安全であるかなどを観察することで自分にとっての危険を回避したり、環境と友達を深く認識するタイプは自制心や問題解決能力が備わっています。子ども自身が安心するまで見守り待つことで自分の強みを活かすことができます。

自分の世界で
遊ぶのが得意
な子

発想力

創造力

お友達の集団から少し離れた場所で黙々と遊ぶタイプの子どもは発想力・創造が備わっています。自分のやりたいことへの発想力・創造力が伸びよう他の子との関わりを無理強いせず子どもの世界観を尊重しましょう。

お友達が大好き
な子・お友達と
一緒に好きな子

共感力

協調性

お友達と一緒にだと遊びが盛り上がるタイプの子どもは共感性・協調性が備わっています。お友達の刺激を受けて伸びていくので、お友達との上手な関わり方（距離感・意思疎通の対話・意思の主張・断る力）を育てましょう。

物静かな子
おとなしい子

探究心

やり抜く力

もの静かに一人黙々と遊ぶタイプの子どもは探究心が備わっています。次々に新しい経験させるより、興味をもったものに子どものペースで気の済むまで取り組ませることで、興味や関心が深まります。

見てみてタイプ
な子・お話する
のが大好きな子

自発性

自尊心

自分の発見を毎回教えてくれる子や大人にお話をするのが大好きな子どもには自発性や自尊心が伸びています。子どものお話や興味に関心を持って対話してあげることが大切です。対話の際、得意なこと、頑張ったことに共感してあげましょう。

MI理論

(多元的知能理論／
マルチプル・インテリジェンス)

ハーバード大学教育学大学院教授のハワード・ガードナー教授が提唱する「多元的知能理論 (MI 理論)」とは、人間の知能を測る上で1つの指標だけでは不十分であったため、1983年に「多元的知能理論 (MI 理論)」を提唱し「知能は紙と鉛筆だけで測るテスト知能だけではなくそれ以外の知能にも目を向けるべきだ」と主張しました。



博物的知能

様々な素材や体験の中で興味あるものを多角的な視点で考え、探求していく力があります。

フィールドワークで学ぶ
(自然体験や博物館など)

知能を生かして
学力を伸ばす方法

言語的知能

内言も表現しながら、話すことで思考が整理される力があります。

読み書きが得意
聞き取る力が高い
教科書での勉強が得意

対人的・内省的知能

対人的知能 他者との関わりが上手で共感力があり、自分だけでは発揮できない力も他者から刺激を受けて、伸びていきます。

お友達と一緒に勉強する

内省的知能 自分の心と向き合いながら思考したり、発想したりすることが得意です。自己を深く探求する力もあります。

一人になる時間が不可欠



論理・数学的知能

数（数列・量・規則性）等の発見が得意で数の興味を深く考えていく力があります。

物事の道筋を考えるのが得意
因果関係の発見
理科や算数(数学)が得意

空間的知能

頭の中に描いたイメージをデザインしながら象徴する力が得意です。視覚優位なので目からの情報が得意。

絵や図など、ビジュアルの多い教材(図鑑など)を駆使しよう

身体運動的知能

運動能力が高く、何かをやり抜く体力もあります。体を使って自己表現したり、手を使ってモノ作りすることも得意です。

歩きながら声を出しながら勉強する

音楽的知能

聴覚が敏感で、音からの情報を多く受け取るのが得意
リズム感が音感がよく、ヒヤリングも得意です。

曲や歌を覚えるのが得意
(なんでも曲にして覚える)



②言語能力について

「言語能力」は、学力と非認知能力、双方の礎！

【認知能力】

読み・書き

論理的思考

認識能力



【非認知能力】

コミュニケーション力

思いやり

共感力

広義の言語能力

- ・ 言語能力が育たなければ、学力は上がらない
- ・ 社会と関わりながら生きていくためにも、自分や他人の気持ちを「言葉で表現・理解する力」が必須
- ・ 国語だけでなく、論理的思考が必要な理数系（プログラミングなど）の力にも

0～1歳 感情と共感の発達過程

- ・感情の基本は「快 - 不快」
- ・人見知り、後追いが見られる

感情表現＝泣く

1歳頃：語彙数 1-3 語

1歳半：語彙数 15-20 語 / 2 語分

1～2歳

- ・感情の分化が始まる
- ・親への行動を確認が始まる
- ・自己主張が始まる

オノマトペ

端的にゆっくりと過去形座る＝「おしり座ったー」

2歳：語彙数 300 語前後 / 3 語分

2～3歳 イヤイヤ期

- ・喜怒哀楽がはっきりしてくる
- ・自分を認めて欲しい気持ち
- ・ことばで気持ちを表し始める

構音確認

あいうえおの段の発音確認

3～4歳

- ・「好き」という気持ちが高まる
- ・社会的承認欲求＝自分を認めて欲しい
- ・大人の役割に気づき始める

指示行動（意味理解）一対一でゆっくりと繰り返えし、考える
（過剰適応していないか注意）**4～5歳** 心の理論の獲得

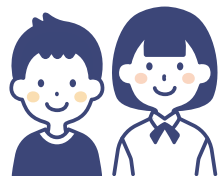
- ・人の内面感情に気づき始める
- ・人が嫌がること、汚いことばを使うことがある
（バカ・うんちなど、また親の表情の変化が見たくて「寂しい」なども使う場合も）
- ・「つらい」「悔しい」気持ちが出てくる
- ・努力を評価してほしい（見てみて！時期）

5～6歳

- ・うそをつくことがある
- ・「恥ずかしい」という気持ちが出てくる
- ・失敗しないように備えるようになる

【親子関係とコミュニケーション】

**大人の価値観だけで
判断せず子どもの興味に
大人も興味を持つ。**



信頼関係を築くコミュニケーションの基本



01

問いかけ

どうしたの？

【事例 1】小学4年生の息子が下校途中にカエルを拾い、ズボンのポケットに入れて帰ってきた話。

【事例 2】中学1年の頃、長女がガスマスクを欲しいと言ったお話。



02

共感をする

大人の意見を押し付けない

何をしたかをすぐに聞かない
(誘導尋問しない)

ヘリコプターペアレントにならない

ホバリングするヘリコプターのように、自分で考えて判断ができる年齢の子どものまわりを旋回して干渉やコントロールをしようとする親のこと。上空から常に子どもを監視し、何か起きるたびにすぐに飛んでくるヘリコプターのような保護者は、子どもに対して必要以上の監視や管理をおこなってしまうのが特徴です。

10歳前後から ※ピアジェの発達段階論

対話からの思考力・
論理的思考が伸びる

ワンポイント
アドバイス

幼児期からプレゼンテーションや
ディベートのスキルだけを身に付け
させない（子どもの個性に合わせる）

03

子どもの意見を聞く

04

子どもの意見に共感しながら大人の意見を伝える

大人の言うことはうるさい（拒否したい）という先入観
を持たなくなる＝良好な親子関係が言語能力を伸ばす

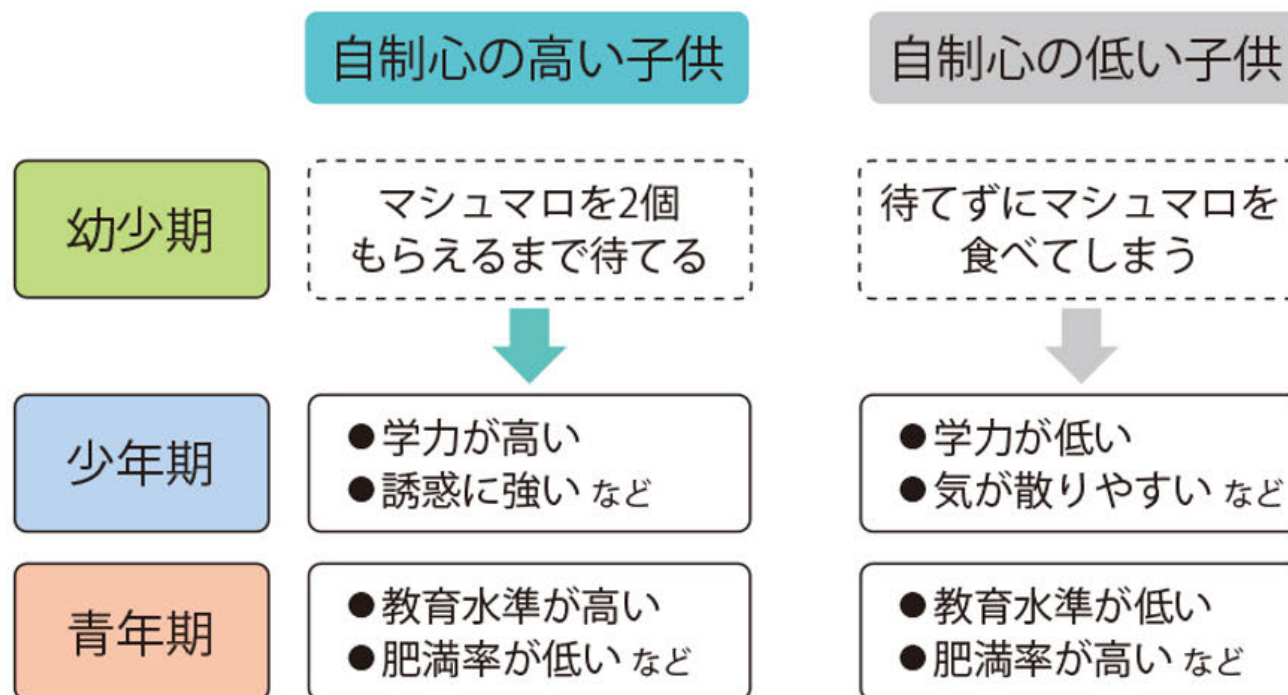


③ 自制心について

「自制心」は目標達成するための力に

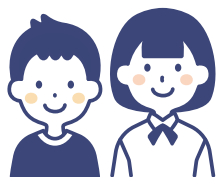
「マシュマロ・テスト」

4歳児の目の前にマシュマロを置き、「15分間食べるのを我慢できたら、2個にしてあげる」と言って立ち去る。



・15分間待てた子どもは、少年期、青年期においても学力が高く、一方、待てずにマシュマロを食べてしまった子どもは、学力が低いという傾向が明らかに

・大人が「我慢させる」ではなく、自分の意志で「我慢できる」ことが大切



自制心＝感情コントロールを伸ばす親子の対話



**自分の感情をコントロールできることが土台となり、成長と共に
自分自身をコントロールする能力を向上させることができる**

ワンポイント
アドバイス

自制心＝我慢強い子に育てる・厳しく育てる、ではない（怖いから大人の言うことを聞く、では意味がない）

01

問いかけ

どうしたの？

例 1：親に物を投げる→「お友達に投げたかったの？」

例 2：触ってはいけない物を触る→「これが触りたかったの？」

例 3：お友達の物を勝手に取り上げる→「これが欲しかったの？」



「ちょっとやってみたかった」
「間違えちゃった行動や失敗」
＝悪気があった訳ではない



02

共感をする

大人の意見を押し付けない

ワンポイント
アドバイス

親が感情をぶつけない

→自己肯定感が下がる

例 1：「そっか、投げたかったんだね」

例 2：「これが触りたかったんだね」

例 3：「お友達の物が欲しかったんだね」

03

子どもの意見を聞く

04

子どもの意見に共感しながら大人の意見を伝える

例 1：「なげて当たると痛いから（物を投げても大丈夫な場所など）こっちに投げるならいいよ」（注目欲求の場合も多い）

例 2：これは危ないから、こっちとこっちならどうかな？（複数の選択肢から選ばせる）

例 3：お友達、これ今使っているから「かーしーてー」って聞いてみよっか！



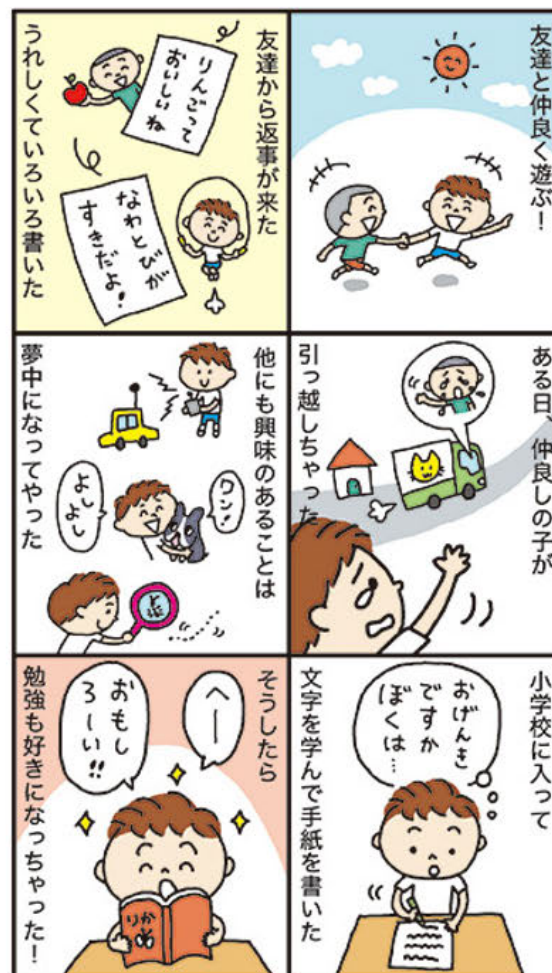
④探究心について

探求心が学びのモチベーションに

入学前に過剰に訓練すると.....



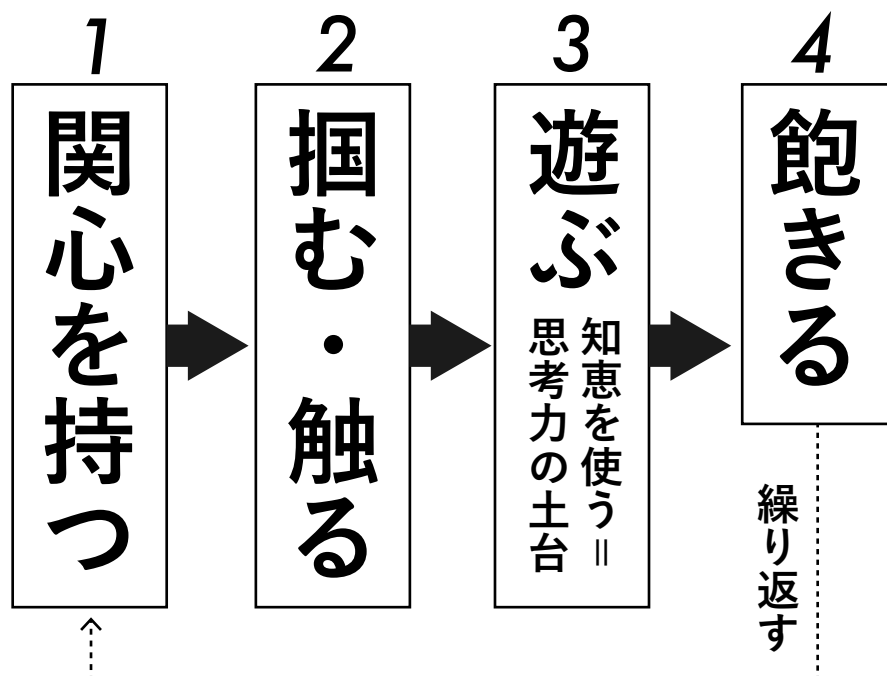
遊びの中で興味・関心を育てると.....



・遊びを通して興味や関心を育てられた子は、小学校に入り学びの力につながり、
いわゆる「あと伸びする力」がつく

「遊びの起承転結」と「熱中力・探求力の過程」

子どもは一人ひとり、それぞれ興味や関心が違います。その子が何に熱中するのか、探究心を伸ばせそうなのかを知るために「遊びの起承転結」「遊びの実況中継」で観察・見守っていきましょう。その小さな発見を日々の良い関わりを積み重ねることによって結果「子どもが熱中すること」が才能の芽から個才（自分だけの強み）となります。



★遊びの起承転結（生後8ヶ月の場合）

- 1：関心を持つ（ペットボトルを見つける）
- 2：掴む（ペットボトルを掴む）
- 3：遊ぶ（ペットボトルを舐めたり叩いたりかじったりする）
- 4：飽きる（ペットボトルを離す）

★起承転結を元に 遊びの実況中継を実践

「2035年の人間の条件」

暦本純一・落合陽一

“ニヤニヤしながら一人遊びできる才能”



熱中力・探求力

=非認知能力

熱中力があれば何事にも興味を持ち **探求**し
意欲的な学びにつながる = **読解力**

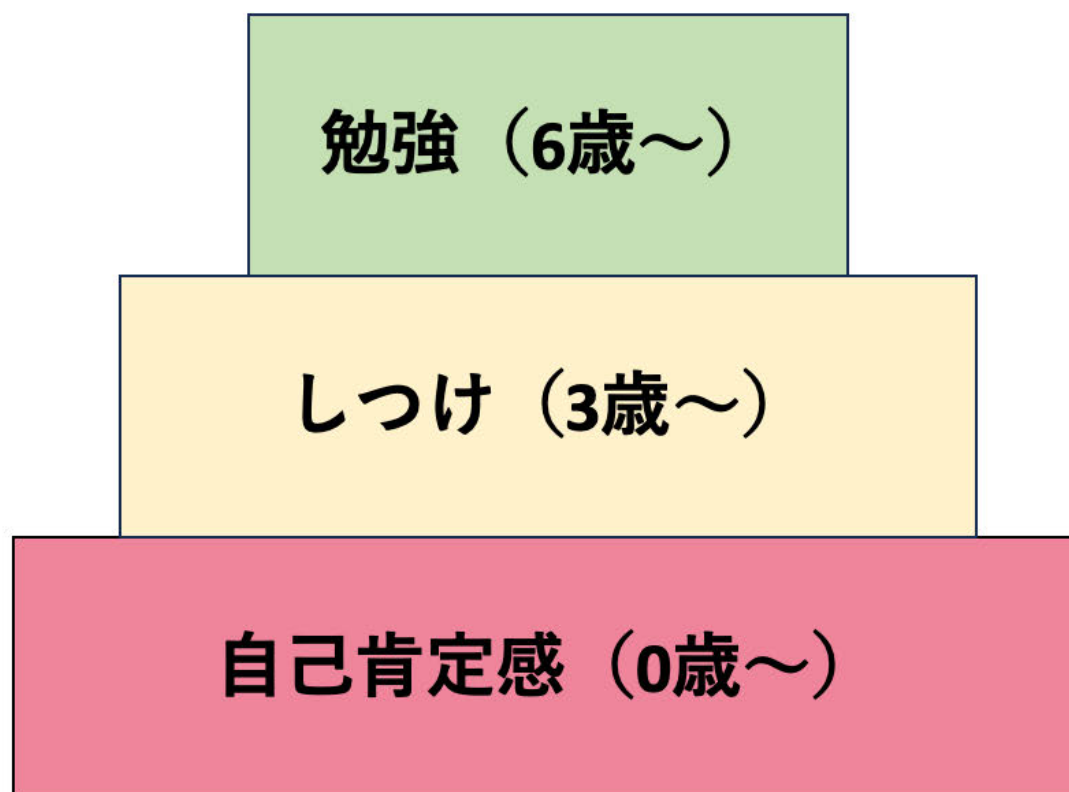
勉強が嫌いな子 = **意味の理解**をしようとしな





⑤ 自己肯定感について

自己肯定感は成長と学びの土台



(明橋大二：精神科医、「子育てハッピーアドバイス」シリーズ著者)

- ・「自己肯定感」と「自己効力感」は違う
- ・「自分はこれができるんだ」という「能力に対する自信」ではなく、「できてもできなくても、私は私でいいんだ」という「存在に対する自信」があるからこそ頑張れる

自己肯定感の構造の仮説

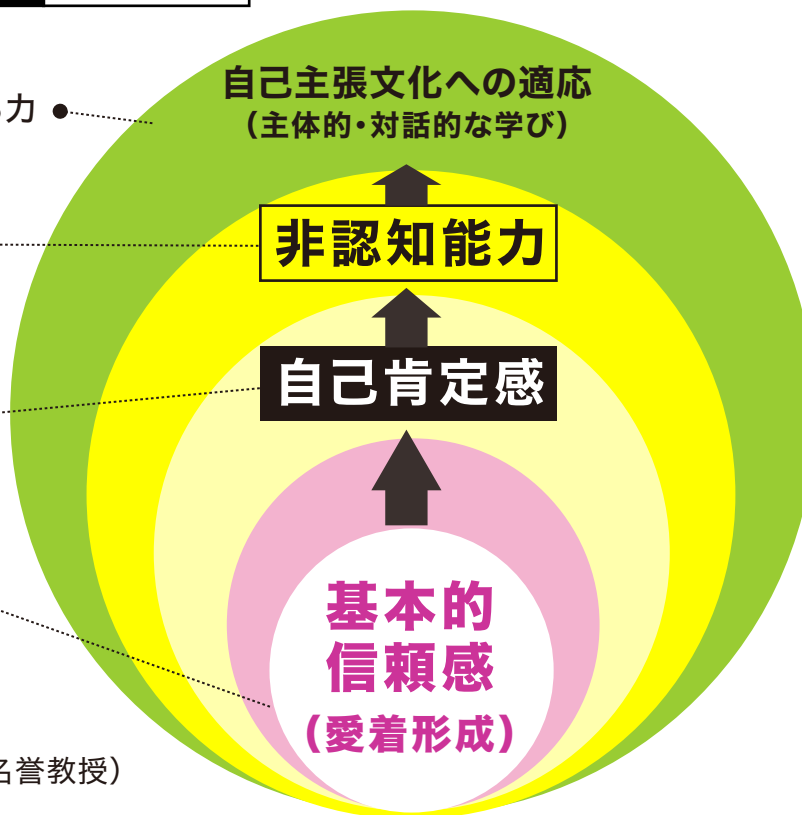
社会や文化の求めによって
形成される「自己主張」できる力 ●

基礎的信頼感、自己肯定感を
ベースに育つコミュニケー
ション力や自制心などの
社会的情動スキル

「たとえ失敗しても自分
は愛される存在なのだ」
という自分への信頼感

「ありのままの自分を
愛してくれる人がある」
という他者への信頼感

(汐見 稔幸:教育学者、東京大学名誉教授)



子どもは
「成長」と「甘え」を
交互に繰り返し
ながら発達する

発達＝成長（獲得）と衰退（喪失）を
繰り返し結びついておこる過程

【子どもの甘えたい欲求を満たす】

「欲求を満たしてあげる」「要求を60%満たして
あげる」を続けていると、子どもの中に人として
の土台（人は信頼できる／自分は愛される価値
がある＝愛着形成）から自己肯定感が育ちます。

子どもの自己肯定感が低く
なると起こる問題行動

目に見える問題



- ・最近「癪癢」が強くなった
- ・逆に「甘え」が強くなった
- ・下の子への攻撃がひどい
- ・怒られるようなことばかりする
- ・何かあるとすぐ泣く
- ・自信のない発言が多くなった

目に見えない問題

- ・外で頑張りすぎている、環境が合わない
- ・頑張っている自分の心を満たして欲しい
- ・私のことを注目してくれない
- ・私のことを注目してくれない
- ・心が疲れてきている
- ・お友達との関係（心の理論の育ち）

子どもの
心を満たして
回復させる



⑥想像力について

「想像力」は問題解決のためにも大切

想像力がある



アレが欲しい

→
お小遣いを
貯めてから

→
買い物に
行こう

想像力がない



アレが欲しい

→
盗っちゃおう

- ・「どういうプロセスが必要か」を考えられるのが想像力
- ・ AならばBであるということを考えるのが第一段階で、通常の間人は三階段まで想像できる
- ・ 認知の歪みがある子は想像する力が弱く、二階段になってしまうことも

物おじしない子 **主体性**
好奇心旺盛な子 **実行力**
自由気ままな子

たくさんの物の中で
複合的な遊びから
想像力を伸ばす

人見知りの子 **自制心**
観察タイプの子 **問題**
場所見知りな子 **解決力**

安心できる環境の中で
想像力を伸ばす

自分の世界で
遊ぶのが得意
な子 **発想力**
創造力

一つの興味がじっくり
掘り下げたり、一人劇を
しながら想像力を伸ばす

お友達が大好き
な子・お友達と
一緒に好きな子 **共感力**
協調性

お友達とのごっこ遊びや
遊びを真似っこしながら
想像力を伸ばす

物静かな子 **探究心**
おとなしい子 **やり抜く力**

落ち着ける環境の中で
一つの興味がじっくり
掘り下げて想像力を伸ばす

見てみてタイプ
な子・お話する
のが好きな子 **自発性**
自尊心

独り言に没頭する・
認めてくれる人がいる
中で想像力を伸ばす



⑦コミュニケーション能力について

「コミュニケーション力」の“聞き取る力”は学習の要

＜＜聞き取る能力＞＞

認識能力

理解力

察する能力

想像力



＜＜話す能力＞＞

論理力

語彙力

表現力

度協力

- ・相手の話を聞いて、自分と同じ部分、違う部分が聞き分けられる能力のこと
- ・相手の言っていることをきちんと汲み取っていく能力は認知能力のひとつ。認識能力が弱いと「認知の歪み」が生じる
- ・微妙な違いを察する能力は、すべての学習において役立つ

子育ての基本（要求との関わり方・性格のペースと発達の把握）

「誰のため」の教育なのか

子どものために想い「親が今、我が子にできることは何なのか」と育児法や、教育施設やお習い事をネットやSNSで調べたりすることは、良いことです。ただ、それは「親がそうしたい」だけで我が子はそれを本当に必要としているのか、子どもの意思が置いていかれている事例を多くみてきました。良い教育を求める前に必要なのは「**子どもの性格やペースを知ること・発達段階を理解すること**」が大切です。

【子育ては受け身で（子どもの気持ちに寄り添う）】

前のめりに頑張る必要はありません。子どもが成長すればするほど、親の姿勢は「あなたのことを大切に思っているよ。だから必要な時には、いつでも声かけてね〜。」のような、**子どもの気持ちに寄り添い、見守る**受け身が丁度良いのです

【子どもが望んでいること】

「自分の意思を受容してくれること」「自由と自立を尊重してもらうこと」

「心も体も心地よい=**ご機嫌**である」

主体性とは **自分はどうしたいのか、何がやりたいのか**

子どものペースを尊重し、ママは焦らず、煽られず

親は前のめり
にならずに

見守り、待つ！



⑧意欲について

「意欲」はすべての社会行動の源泉になる

図1. 就学前の遊びを通じて身につけた力

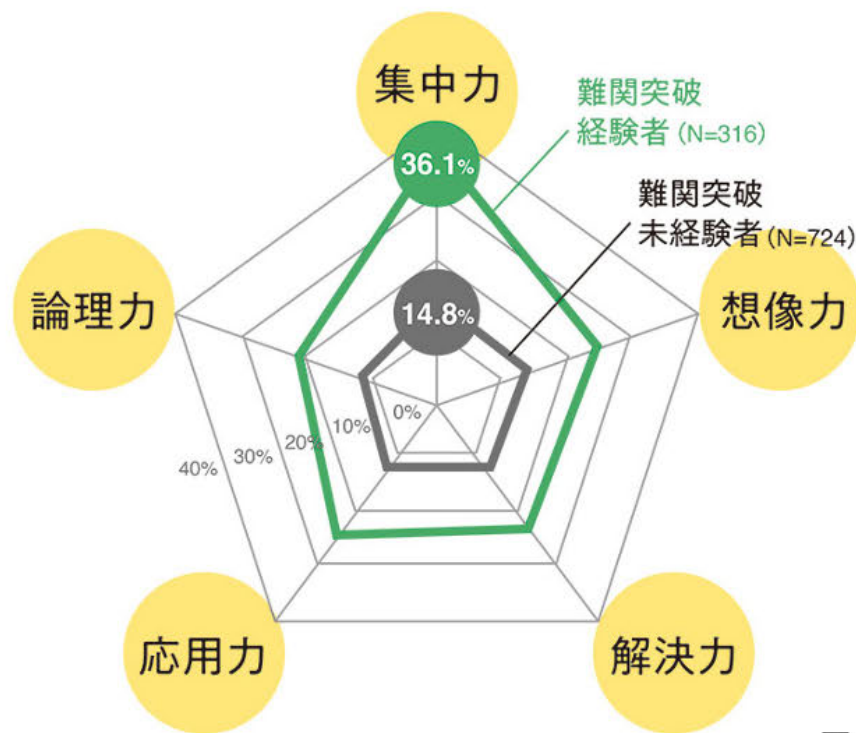


図2. 熱中体験の有無

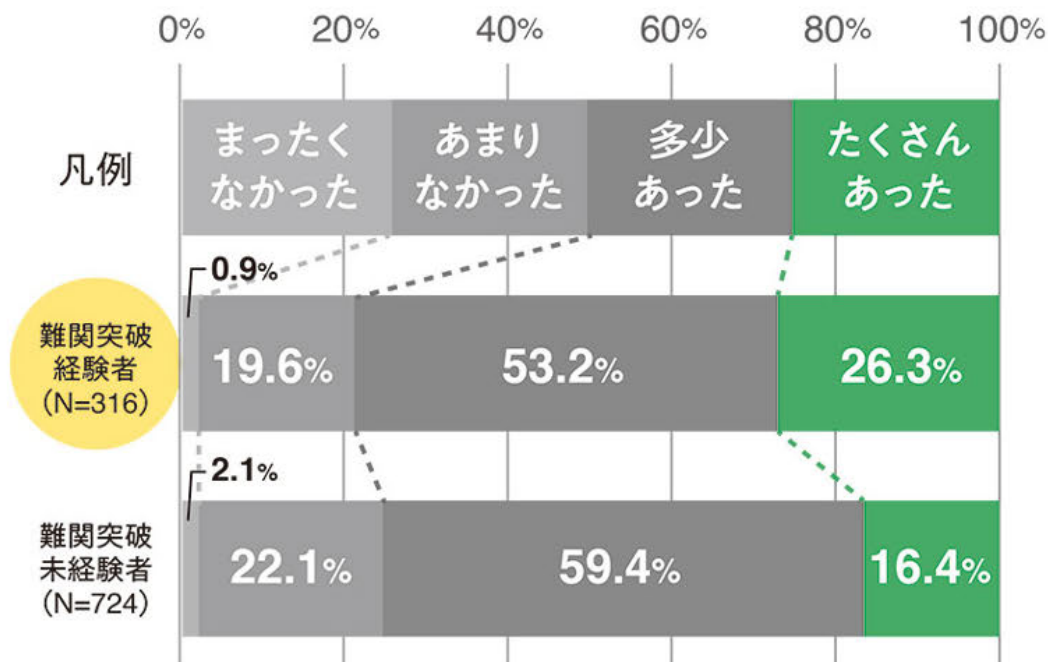


図1・図2 出典：プレイフルラーニング～幼児の「遊びと学び」プロジェクト

- ・ 好奇心を持って積極的に物事に向かおうとする姿勢は、学びの場で欠かせない
- ・ 大人から強制的にさせられることより、子ども自身が主体的に自ら取り組み、「できた」と感じる達成感（成功体験）を得ることは、さらなる意欲を生み、のちの学習意欲につながる。

エリクソンの心理社会的発達理論

(アメリカの
発達心理学者)

乳幼児期 (0-1 歳)

信頼 vs 不信

幼児期前期 (1-3 歳)

自律性 vs 恥・疑惑

幼児期後期 (3-6 歳)

自主性 (自発性) vs 罪悪感

児童期 (6-12 歳)

勤勉性 (生産性) vs 劣等感



一番好奇心旺盛
なのは生まれて
からの赤ちゃん

やりたい！触ってみたい！
自ら発達していく力

=自己成長力

■目と手の協調能力 例：ハンガリード＝手の発見

■粗大運動 例：棚の上の玩具に触りたい

■微細運動 例：お財布の中身で遊びたい

主体性の成り立ち



家庭が安全基地
子どもの自由な
意思を尊重する

VS

- ・好奇心がない
- ・創意工夫しない
- ・すぐ諦める
- ・チャレンジしない

(失敗が怖い・正解を目指す・
完璧であろうとする)

- ・他者比較ばかりする

■親にとって都合よい育て方

- ・過干渉・先回り・予防線を貼る
- ・良い子であることを求める

■教育価値観を押し付け

- ・親の既成概念の枠で育てる
- ・昭和の成功モデル (根性論)

思春期・反抗期
に突入する前
までは子育ての
やり直しが可能

二次障害の予防



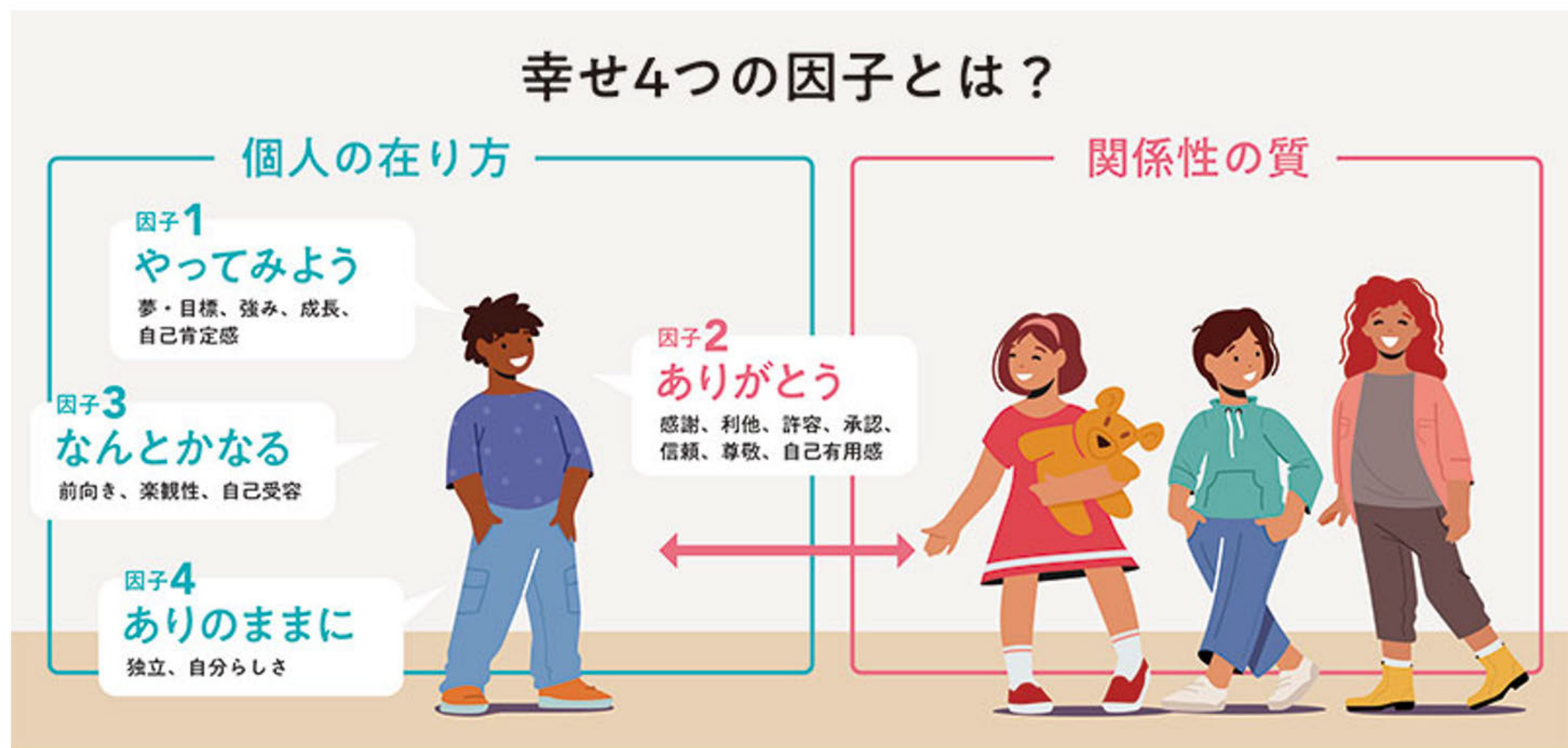
// 10歳以降に //

「力を発揮できる子」を
育てることが大切



⑨ 非認知能力が
子どもの幸せな生き方
(ウェルビーイング)の
土台となる

非認知能力が「幸福度」の鍵に！



「学力・学歴」＝「幸せ」ではない

地位財

＝長続きしない幸せ



非地位財

＝長続きする幸せ



幸せ4つの因子 (P10)



子どもの**幸せ**は
「やりたいこと」
「なりたいもの」
を実現できること

**子ども達は強制よりも
自由を与えることで最もよく学ぶ**

A・S・ニール(イギリスの新教育運動の教育家。世界で一番自由な学校「サマーヒル・スクール」を創立)